

IPCC第3作業部会第5次評価報告書 政策決定者向け要約の概要

独立行政法人国立環境研究所
社会環境システム研究センター フェロー 甲斐沼 美紀子



気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第39回総会が2014年4月にベルリンにおいて開催され、IPCC第3作業部会第5次評価報告書(気候変動の緩和)の政策決定者向け要約(SPM)¹⁾が承認・公表されるとともに、第3作業部会報告書の本体が受理されました。本報告書は、昨年9月に公表された第1作業部会報告書(自然科学的根拠)と、本年3月に公表された第2作業部会報告書(影響・適応・脆弱性)に続くもので、これら3部の報告書の知見を統合した統合報告書の公表が本年10月に予定されています。

第3作業部会報告書は、世界各国から選出された235名の執筆者により執筆されました。日本からは1名の統括執筆責任者、9名の代表執筆者が参加しています。私は第7章の「エネルギー・システム」を担当しました。報告書作成の過程では、世界中の専門家と政府から3万8千件を超えるレビューコメントが寄せられました。2007年の第4次評価報告書依頼7年ぶりとなるもので、この間に出版された新たな研究成果や実施された政策に基づいて、温室効果ガスの排出を抑制する緩和策が評価されています。概要を以下に記します。

<概要>

①温室効果ガス排出量のトレンド

気候変動緩和政策の数は増えているにもかかわらず、温室効果ガス(GHG)の年間排出量は1750年から2010年にかけて増え続けています。1970年から2010年の260年間における人為起源の累積排出量のうち、約半分は最近の40年間(1970年から2010年)に排出されました。世界的には、経済成長と人口増加が、化石燃料燃料によるCO2排出量の増加の最も重要な推進力である状態が続いています。2000年から2010年の間では、人口増加の寄与度は過去30年間と比べてほぼ同じですが、経済成長の寄与度は大きく伸びています。また、石炭の使用が増加していることもCO2排出量の増加の一因です。

②シナリオが示す温室効果ガス排出の道筋

追加的な緩和策が行わなければ、今世紀末には世界平均気温が3.7°Cから4.8°C上昇すると予想されます。今世紀末に大気中のGHG濃度が約450ppm[CO2換算]となる緩和シナリオでは、人為起源のGHG排出による気温上昇を産業革命以前と比べて2°C未満に抑えられる可能性が高いと推計されています。450ppm緩和シナリオを実現するためには、エネルギー部門での大規模で世界的な転換が必要となります。これらのシナリオの多くは、低炭

素およびゼロ炭素エネルギーのシェアを大幅に増加させるとともに、CO2排出量をゼロ以下に減少できる可能性のあるバイオCCS(バイオエネルギー+二酸化炭素の回収貯留)を今世紀後半にかけて導入することを盛り込んでいます。緩和シナリオでは、エネルギー部門だけでなく、すべての部門において、GHG削減努力が必要であると指摘しています。

③緩和のための政策および制度

十分な排出削減のためには投資のパターンを変更することが必要です。化石燃料発電への投資を省エネルギーや再生可能エネルギーへの投資に向けた対策が必要となります。また、国や国際的な開発銀行と連携して、民間部門の気候変動緩和のための投資を増やす政策を実施することも重要です。民間のリスクを軽減して投資にインセンティブを与える政策手段の例としては、信用保険、固定価格買取制度、譲許的(返済条件が緩い)融資などがあります。

緩和対策は気候安定化だけでなく、大気質やエネルギー安全保障の目的を達成するためのコストを下げることに貢献します。対策が遅くなると対策の選択肢も限られてきますので、早くに対策を進めることが重要です。

1) IPCC (2014) Summary for Policymakers. In: Climate Change 2014: Mitigation of Climate Change, IPCC Working Group III Contribution to AR5
http://report.mitigation2014.org/spm/ipcc_wg3_ar5_summary-for-policymakers_approved.pdf



IPCC第3作業部会の第4回執筆者会合の様子(2013年7月、アジアアベバ)

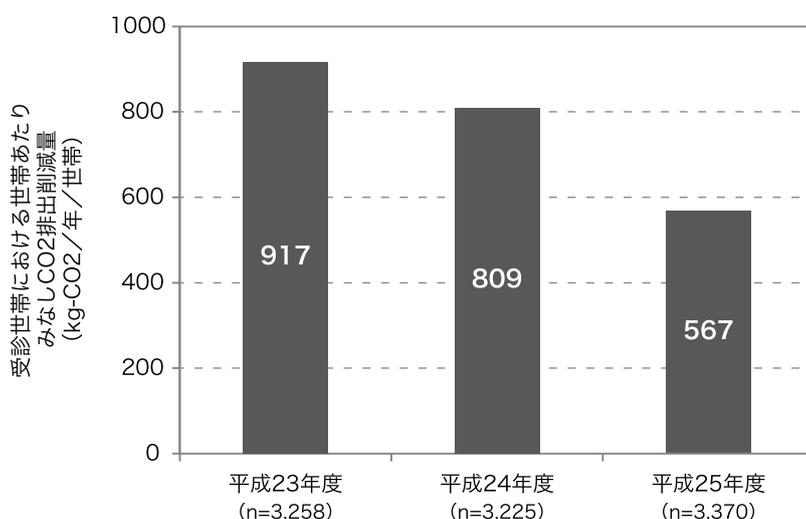
家庭エコ診断ふりかえり、そして、今年度は・・・

◆家庭エコ診断推進基盤整備事業の成果

平成26年度からの家庭エコ診断制度の実施に向け、3カ年にわたり家庭エコ診断推進基盤整備事業を進めてきました。3年間の事業期間の最終年度である平成25年度の成果の一部を紹介します。

表：各種団体や地域協議会等との連携による診断実施状況

年度	平成23年度 (10月～1月)	平成24年度 (6月～2月)	平成25年度 (6月～12月)
診断実施件数(件)	5,180	5,973	5,547
診断実施機関数(団体)	40	42	45
診断員人数(名)	418	516	569



図：平成23年度～平成25年度事業における受診世帯1世帯当たりのみなしCO2排出削減量

⚠ うちエコ診断データの注意点

うちエコ診断の受診者は、一般的な統計調査のような無作為抽出ではなく、環境問題や省エネに関心が高い方が多く、標準的な家庭と比較してデータに偏りがある可能性がある点に注意が必要です。
また、図中のnは、事後調査票が回収可能であった受診者の数を示します。

◆2014年事業テイクオフ！

2014年春号(Vol.14)でお伝えした「家庭エコ診断制度」による診断がよいよスタートしました。4月以降、診断のスタートに向けた準備を関係する皆様と進めて参りました。

- ・昨年度うちエコ診断員としてご活躍いただきました方々を改めて「うちエコ診断士」として認定するための更新研修会を全国で開催しました。総勢793名の方にご参加いただき全員を認定しました。
- ・診断全体を運営・管理する「うちエコ診断実施機関」は、7月2日時点で40団体の認定が完了しました。認定団体の情報は、下記URLの家庭エコ診断ポータルサイトをご覧ください。

～ 主なスケジュール ～

2014年	8月9日(土)	第1回うちエコ診断士・うちエコ相談員資格試験 筆記試験
	9月6日(土)、7日(日)	第1回うちエコ診断士・うちエコ相談員資格試験 実技試験
2015年	10月中旬	家庭エコ診断制度説明会(東京・大阪の2会場で開催予定)
	3月31日まで	うちエコ診断実施機関の認定申請受け付け

家庭エコ診断ポータルサイト <http://www.uchieco-shindan.go.jp/2014/kikan/list.php>

低炭素杯2015エントリー募集開始！ 今年度は「地域エネルギー部門」を創設！

次世代に向けた低炭素社会の構築を目指し、地球温暖化防止に関する活動を表彰する制度を通じて、地域のベストプラクティスを全国に展開するしくみ「低炭素杯。」5回目を迎える今年度は、新たに「地域エネルギー」をテーマにした部門を創設しました。

8月11日(月)から9月30日(火)まで「低炭素杯2015」に出場するエントリー団体を募集。選ばれたファイナリストがプレゼンテーションを展開する本番は2015年2月13日、14日です。

多くの皆様からのご応募を心よりお待ちしております！

STEP1

エントリー

以下のURLより、エントリーシートをダウンロードし、4つの部門から1つを選択してエントリーしてください。

<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2015/entry.php>

地域活動部門

企業活動部門

学生活動部門

地域エネルギー部門

期間：2014年8月11日(月)～9月30日(火)まで

対象：低炭素社会づくり活動や地球温暖化防止に取り組む団体

※法人格の有無は問いません

【例】市民活動団体、非営利団体、企業、自治体、学校、幼稚園など

STEP2

書類審査(11月～12月上旬)→ファイナリスト決定(12月中旬)

低炭素杯2015に出場する40団体程度を選考して通知

STEP3

低炭素杯2015

開催日：2015年2月13日(金) プレゼンテーション→審査
2015年2月14日(土) 各賞の受賞団体の決定

会場：東京ビッグサイト 国際会議場



低炭素杯2014表彰式の様子



【詳細・お問い合わせ】

低炭素杯事務局(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)

URL : <http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2015/>

エントリーの詳細は下記のURLをご参照ください。

Mail : teitanso-hai@jccca.org TEL : 03-6273-7785

「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」募集開始！

平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の募集が始まりました。

地球温暖化防止活動環境大臣表彰とは、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人・団体を表彰することにより、受賞者における一層の取組の推進を促すとともに、国民・事業者等に対する地球温暖化対策の普及の促進を図ることを目的として、平成10年から実施している環境省主催の表彰制度です。

今年度は、7月15日～8月25日の期間、下記の要領で募集します。自薦、他薦は問いませんので、ふるって応募ください。

募集要領

◆ 応募の方法

環境省のホームページ「平成26年7月15日環境省報道発表「平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰募集について(お知らせ)」より申請書をダウンロードし、必要事項を記入したうえで、下記の提出先へ郵送にてご応募ください。

◆ 対象者

「1. 技術開発・製品化部門」、「2. 対策技術先進導入部門」、「3. 対策活動実践・普及部門」、「4. 環境教育活動部門」、「5. 国際貢献部門」の各部門における顕著な功績のあった個人又は団体(自治体、企業、NPO/NGO、学校等。共同実施も含む。以下同じ。)及び上記の活動において連携や支援を行っている個人や団体を表彰対象とします。また、表彰対象者は、原則として日本に在住する者又は組織の拠点を日本国内に置く団体に限ります。

ただし、応募申請内容と同一の活動あるいは功績により、過去に地球温暖化防止に関する環境大臣表彰を受けているものは表彰の対象としません。



【提出先・お問い合わせ】

平成26年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰事務局(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4F

TEL : 03-6273-7785 FAX : 03-5280-8100 E-mail : daijin-hyosyo@jccca.org

イベントに出展しました！

◆地球温暖化防止展2014

IPCC 第5次評価報告書を基に作成した図表の展示を中心に、教材ツールの展示、省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」のPR、温暖化に関するアンケート調査(全5問)などを行いました。IPCCによって公表された将来予測に対して、驚きと同時に、対策すべき問題であると多くの方が認識されていました。また、アンケート調査の結果では、「日常生活で最も重視すべき環境行動は？」という問いに対し、第1位は「節電」で第2位は意外にも「地産地消」という答えが多くきかれました。

◆エコライフ・フェア2014

教材ツールを中心に、省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」のぬり絵コーナー、タペストリーの展示など、家族で楽しめるブース内容にしました。2日間とも屋外イベントには不利な雨空となりましたが、ブースにはたくさんの方に来ていただきました。中でも、しんきゅうさんの着ぐるみが登場すると一際盛況となりブースが賑やかになりました。また、ぬり絵は子ども達に大人気で、一人で何種類もぬってくれた子や、用紙を持って帰ってくれた子もいました。



地球温暖化防止展2014
2014年5月27日(火)-30日(金)東京ビッグサイト



エコライフ・フェア2014
2014年6月7日(土)-8日(日)代々木公園

編集後記

夏がやって来た。今年はエルニーニョ現象の影響で冷夏が予想されているが、暑い季節には違いない。輪をかけて都会の夏は暑い。窓を開けても隣接した建物の影響か、カーテンは時が止まったように微動だにしない。「動け!」と念じてもムリムリ。さらに酷いのは「ワシワシ」と遠慮なしに押し寄せてくる隣家のエアコン室外機が吐き出す熱波ども。あー辛っ。

都会暮らしも早や3年。「石の上にも3年」とは云うものの、夏の暑さは耐え難い。石を温める前にこちらがヒートアップしてしまう。そういえば3年前の夏、テレビは「でんき予報」を放送し、地下道や駅構内は「照明を落として薄暗かった」。ビルの「エスカレーターは止まり、エレベーターも間引き運転中」だった。あの頃、ハートが一番熱い季節だった。日本人の。

家庭エコ診断グループ長 松本 新

エコアナウンサー

櫻田彩子の ミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile
宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、
「低炭素杯」の司会など。



街のかさ上げと宅地の造成が進む宮城県南三陸町で、森の人たちが動き出している。「南三陸を森から語る」フォーラムに参加した。林業の専門家は南三陸の森のポテンシャルは全国有数だと言う。地元の森林組合は、震災後の今は先祖が作って来た森を拓き木を伐り造成に忙しいが、早く連続と続いてきた森を作る作業に戻りたい、と語る。そしてその時、価値を最大化できるよう、グローバルでの南三陸木材の評価向上、売り方、育て方、管理法など今できる準備と学びに熱心だ。

私達の眼も震災後は海へむきがちであったかもしれないが、南三陸は昔から森里海川の繋がりを大事にしてきた地。ここで今、地域の人々がエネルギーや資源の生産者として主体的に動き出す準備が整いつつある。



南三陸町志津川俯瞰

賛助会員
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの
活動をサポートしてください!

年会費:個人会員 10 5,000円(10以上) 団体会員 10 20,000円(10以上)

編集・発行



一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット (JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100 <http://www.zenkoku-net.org/>